

第58回三木市ぶどう品評会審査報告

審査員を代表して、農林水産技術総合センター企画調整・経営支援部の木谷から審査報告をさせていただきます。

出品規定に基づいて出品されたぶどう9品種108点について、「第58回三木市ぶどう品評会審査規定」に基づき、加西農業改良普及センター東元主任、栗岡副主任、そして木谷の3名で審査を行いました。

果粒の着色程度、果粒の大きさや揃い、房のしまり、箱全体での房揃い、傷や果粉の付着度など、外観の比較により審査を行い、特賞12点、優秀賞14点を選定いたしました。

ここで本年をふりかえりますと、気象面では、昨年引き続き春先から気温が高く推移しましたが、5月は気温が落ち着き順調な生育が見込まれたものの、6月中旬と7月上旬に一時的に気温が急に上昇し、日焼けや縮果症が見受けられるなど厳しい気候となりました。また病害虫では、べと病、うどんこ病の発生が見られたとお聞きしております。

また本年は、梅雨が6月21日頃から7月21日頃までと平年より遅く、さらに雨も少なかったためぶどうの軸が弱くなりがちで栽培管理も非常に難しかったこととお察しします。

そのような中、台風10号による被害が心配されましたが、北播磨地域は影響が少なかったことは幸いでした。

しかしながら年々気温上昇が続いていることで、生産者の皆様におかれましては、栽培管理のお身体への負担が大きかったことと思います。

このような厳しい気象条件のもと、三木市ぶどう品評会の最優秀賞である兵庫県知事賞に選ばせていただきました長谷ぶどう生産組合 石田 英也さんのシャインマスカットは、粒張りが

特に優れ、房の形状や締まりの良いぶどうでした。

その他、上位に入賞された出品物はいずれも着色や粒張りなど、甲乙付け難い優れたものでした。受賞されることとなりました皆様方には改めてお祝い申し上げます。

ぶどう栽培は、ジベレリン処理や房づくりなど、他の果樹にはない特別な技術が必要となります。近年は異常気象が異常ではなく恒例のようなものとなってきており、環境の変化がぶどう栽培技術にも大きな影響を与えてきています。

年々変化する厳しい気象条件下でも高品質のブドウを生産されている生産者の皆様におかれましては、土壌管理・水管理などに加え、ぶどうの色づきにも気を配りながら栽培方法を試行錯誤しながら努力されていることと想像します。

今後におかれましても、商品価値の高いぶどうの安定生産技術に磨きをかけていただければ幸いです。

最後に、これまで続いてきた本品評会の開催に御尽力いただきました関係者の皆様に敬意を表するとともに、出品いただきました生産者の方にお礼申し上げ、審査報告といたします。

令和6年9月6日

審査長 兵庫県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 木谷 徹